
住宅地

鯰金団

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

住宅地

【コード】

N1887G

【作者名】

鯉金団

【あらすじ】

あるマンションの住民達はとても仲良し。皆仲良く話をしていきます。今日はどんな話をしているのでしょうか？

高層マンションが連なる住宅地。

そんな住宅地の中で象徴とも言える13階建ての高層マンションがあります。

そのマンションに住んでいる住人はとても仲が良く、今日も全員が仲良く話をしています。

彼等は一体どんな話をしているのでしょう？

今日は彼等がどんな話をしているか聞いてみようと思います。

13階に住んでいる東宮^{とうみや}さんが「俺子供の頃さ、メンマに憧れてたんだよね。」と言いだしたのが始めでした。

10階に住む遠田^{とんだ}さんは可笑しな事を言いだした東宮さんに「子供の頃食べられたかったのか？」と突っ込みを入れています。

東宮さんは「いや、なんか子供の頃って結構変なものに憧れたりするだろ？」と言います。

それを聞いた11階に住む土野^{つの}さんが東宮さんの言葉に賛同して「分かる分かる、俺も草履になりたかったもん。」と言っています。

それを聞いた九階に住んでいる九沢さんは「土野って子供の頃から足フエチだったのかよ。」と笑っています。

土野さんは笑われてちよつと拗ねてしまいました。

「ちよつと笑いすぎだよ。」と九沢さんに言っているのは12階に住んでいる王野さん。

2階に住んでいる二井内^{にいのち}さんが「そういう王野さんて髪フエチだからかんざしになりたいかと思ってそうですね。」と言い王野さんを弄り始めました。

王野サンはその言葉に「当たり前じゃないか！！髪綺麗な女性は素晴らしい、世界の宝だよ！！」と立ち上がり熱く語るうとしました

が、皆さんの冷やややかな視線に気付き、ゴホンと咳を一つした後、「子供の頃って好きな物や憧れたものになるうとするじゃない？それが趣味になってたりとかさ。」と空気を変えるのに必死です。その必死さに可哀想だと思つて乗つたのは8階に住む八尾さんです。「そういえば、俺子供の頃から行灯つて何でか解らないけど好きでそれが総じて行灯集めてるなあ。」と王野さんに話します。

続いて話に乗つたのは二階に住む二井内さん。

湯飲みを手に持ちながら「私もお祖父さんの影響か塩の結晶に惹かれて塩には目が無いですね。」と言つとお茶を口に含みお茶を味わっています。

一階に住んでいる元さんが「そういえば九沢さんの部屋にこの間行つたら炭ありましたね、部屋中に。」と九沢さんに話しかけます。

それを聞いた東宮さんは「炭ってなんか思い悩んでる事でもあるのか？」と尋ねています。

九沢さんは「消臭効果があるんですよ。あと水が美味しくなるんですよ。」と言つと、4階に住む四橋さんが「お祖母ちゃんの知恵袋？」と言つて九沢さんに突っ込んでいます。

九沢さんが言う前に6階に住む牟田さんが「四橋、流行を知らないのか？今、炭が流行っているんだぞ。」と四橋さんに教えてあげています。

5階に住んでいる五木さんが元さんに「元はバンドやってたよな？やっぱりギターとか趣味で集めてるのか？」と聞くと、元さんは「僕はバンドの担当はギターで予備も持つてますけど集めてるのは笛ですね。」と言つと全員が以外だという顔で元さんを見ています。

3階に住んでいる光田さんが「笛集めてる奴つてオレ初めて見たぜ。何で笛集めに目覚めたんだ？」と不思議そうに聞くと、元さんは「僕が最初に触つた楽器つて笛だったんですよ。んで、家族の前で笛吹くとすっごい喜んでくれたんですよ。それでいろんな種類の笛を見つけるたんびに買って家族に聞かせてたら気が付いたら笛の演奏より笛集めに夢中になつてたんですよ。」と訳を聞かせてくれま

した。

八尾さんが「いい話かと思ったら最後に変な方向に逸れたな。」と感想を述べています。

「そういえば、七瀬さんと牟田さん、五木さん、四橋さん、光田さんて小さい頃からの付き合いですか？共通の趣味とかあったりするんですか？」と聞くと、7階に住んでいる七瀬さんが牟田さん達と顔を見合わせた後言いました。

「俺達、流しそうめんの水路観察が趣味!!」と。

あまりにも地味な趣味で皆さんが反応に困っていたのが解りました。固まった状態とはああいう事を言うのだと。

その固まった状態から逸早く戻ったのは王野さんでした。

「皆部屋に戻れ!!管理人さんが近づいてくるぞ!!」

その言葉を聞いた皆さんは急いで部屋に戻っていきました。

管理人さんは彼等のマンションの前まで来るとそこで立ち止まり言いました。

「さあ皆さん、竹の伐採を始めましょう!!」と。

(後書き)

後書き修正します。

竹林を住宅地に見立てて話を書いてみました。

竹を高層マンションという風にしています。

1〜13階までの住人の苗字はネットで調べたところ実在の苗字です。

住人の夢や飲んでいたお茶は全て竹が入っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1887g/>

住宅地

2010年10月27日01時44分発行